

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 西淀川区

学 校 名 姫島小学校

学校長名 忠政 良衛

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・姫島小学校では、第6学年 71名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

●国語・算数・理科とともに大阪市および全国平均を下回る結果となった。平均無回答率(回答に至らず白紙となった問題の割合)は国語・算数全国平均下回る結果となっており、最後まで粘り強く問題に取り組む姿勢が見られていることが分かった。また、国語・算数における「回答時間は十分でしたか」という項目に対して、「時間が足りなかった」と回答した児童が、全国平均と比べてそれぞれ、+16.4pt、+8.5ptと高く、ふだんの单元テストと形式が変わった時に、時間配分の対応がでない児童が多くいることが分かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

●学習指導要領の内容別にそれぞれの平均正答率を全国平均と比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が-0.8pt、「情報の扱いに関する事項」が-6.8pt、「我が国の言語文化に関する事項」-3.7pt、「話すこと・聞くこと」が-3.4pt、「書くこと」が-6.1pt「読むこと」が-9.3ptの数値結果であった。7～9問の正解の区分Ⅲの割合が全国と比べて高いのでptの低かった内容を重点的に学習を行う。

〔算数〕

●学習指導要領の内容別にそれぞれの平均正答率を全国平均と比べると、「数と計算」が-3.8pt、「図形」が-7.3pt、「測定」-2.7pt、「変化と関係」が-1.6pt、「データの活用」が-3.4ptの数値結果であった。0～5問の正解の区分Ⅳの割合が全国と比べて高いので、基礎基本の定着を図るとともに「図形」を重点的に学習を行う。

〔理科〕

●学習指導要領の内容別にそれぞれの平均正答率を全国平均と比べると、「エネルギー」を柱とする領域が-6.6pt、「粒子」を柱とする領域が-7.1pt、「生命」を柱とする領域が-6.1pt、「地球」を柱とする領域が-4.8ptの数値結果であった。

質問調査より

●「自分と違う意見について、考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的に回答する(当てはまる・どちらかという当てはまる)児童の割合が、全国平均と比べて-17.9pt低かった。1意見の共通点や相違点の明確化(意見の整理)2目的と背景の共有(相手の立場の理解)3客観的な根拠の提示(グラフや資料、データーなど)4多様な解決策の検討(合意形成)などが苦手であることが予想された。教科学習に限らず、人間関係を形成していく上でも様々な場面でも大切にしたい。一方で、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対して、全国平均を+2.7pt上回って肯定的な回答だった。積極性や創意工夫をしようとする力があることが確認できた。

今後の取組(アクションプラン)

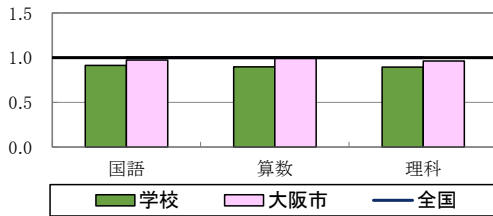
●「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」という項目に対して、肯定的な回答(ほぼ毎日以上)が、+12.2ptであった。授業におけるICTの活用【個別最適な学び】「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という項目で、肯定できない回答が-10.8pt。【協働的な学び】「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」という項目で、肯定できない回答が-8.4ptであった。授業のDX化が進む中、タブレットの活用場面や内容を吟味し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進める。今後も「情報を読み取る能力」「考えを表現する能力」の向上を目指すとともに、学習環境の充実を図っていく。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	61	52	51
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

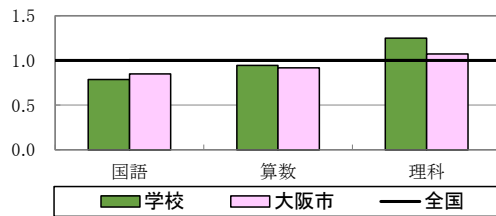
平均正答率(対全国比)



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.6	3.4	3.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

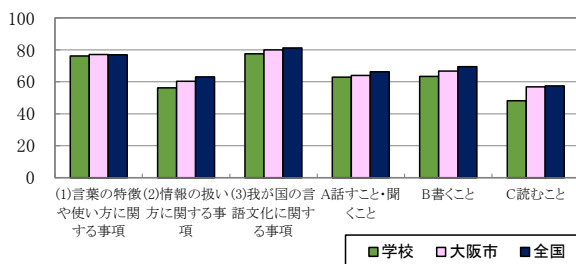
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	2	76.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	56.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	77.5	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	62.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	48.2	56.9	57.5

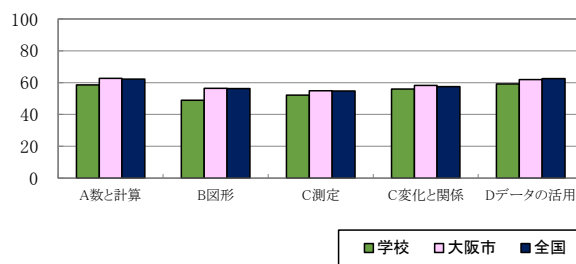
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



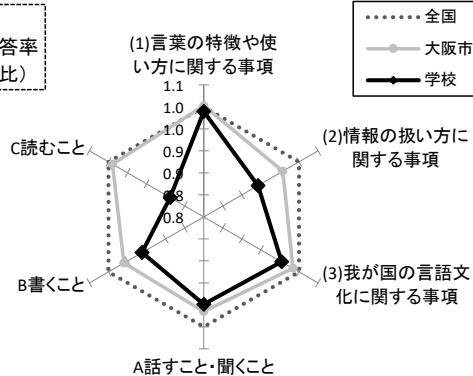
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	58.5	62.7	62.3
B 図形	4	48.9	56.4	56.2
C 測定	2	52.1	54.9	54.8
C 変化と関係	3	55.9	58.2	57.5
D データの活用	5	59.2	61.9	62.6

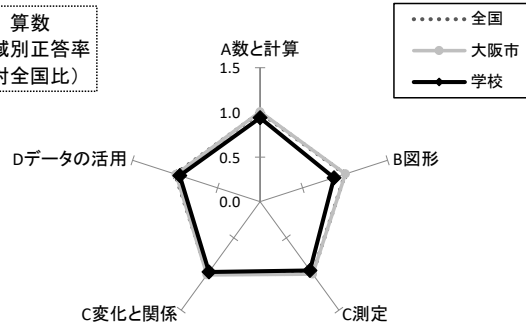
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

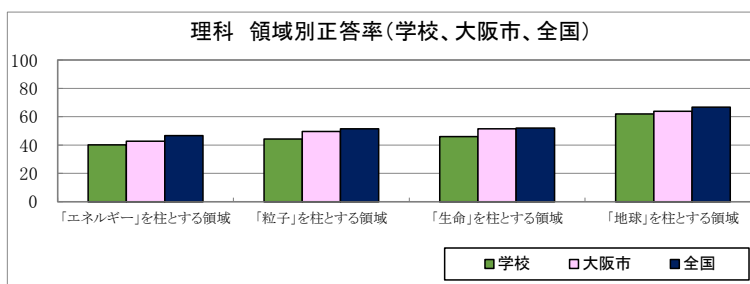


算数 領域別正答率 (対全国比)

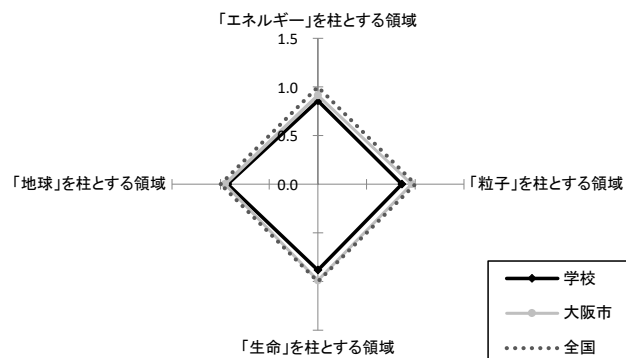


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	40.1	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	44.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	45.9	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	61.9	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

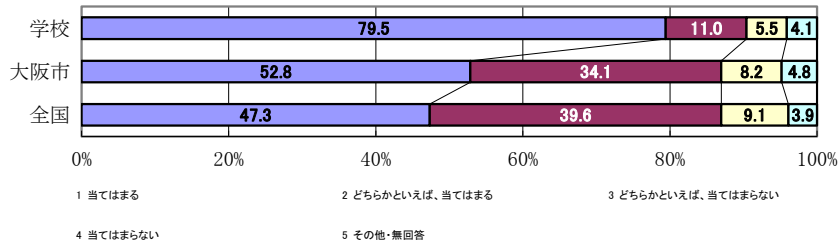
4

5

6

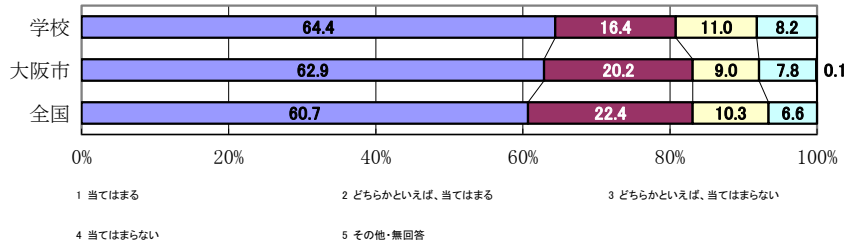
7

8



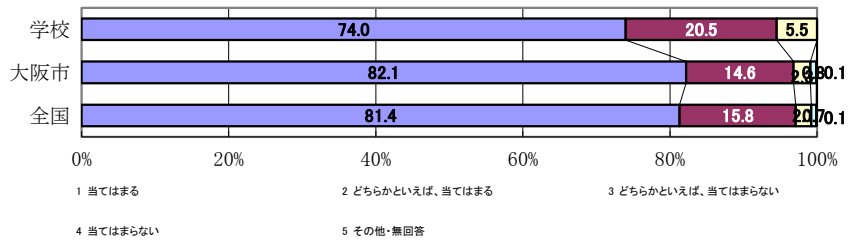
7

将来の夢や目標を持っていますか



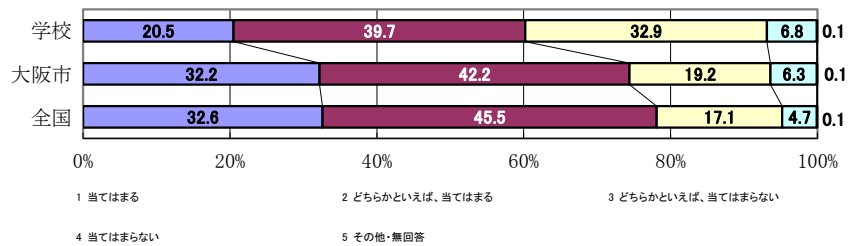
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



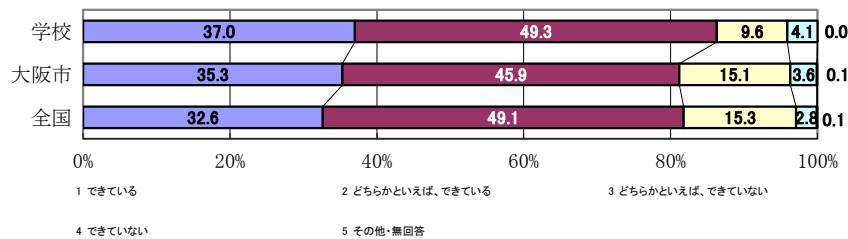
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



16

分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



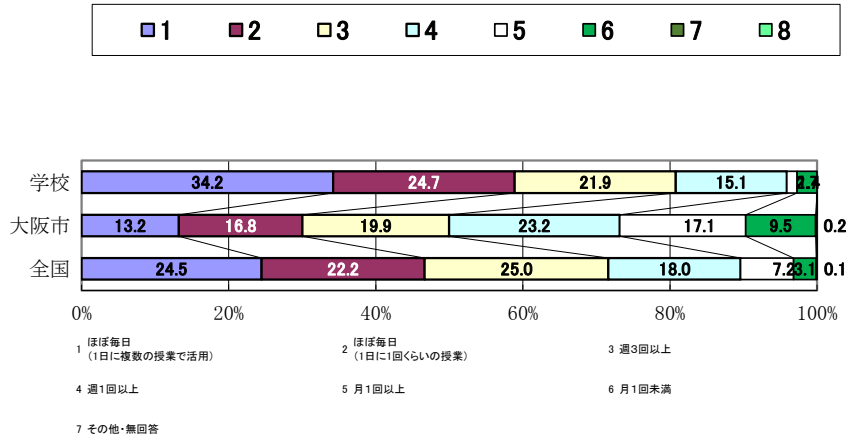
児童質問より

質問番号

質問事項

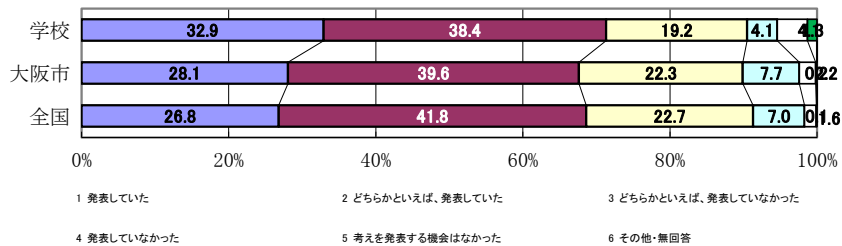
28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



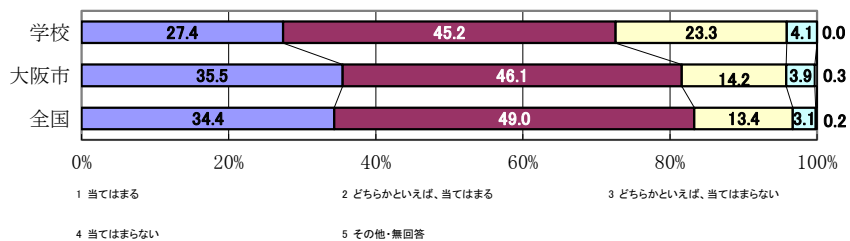
31

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



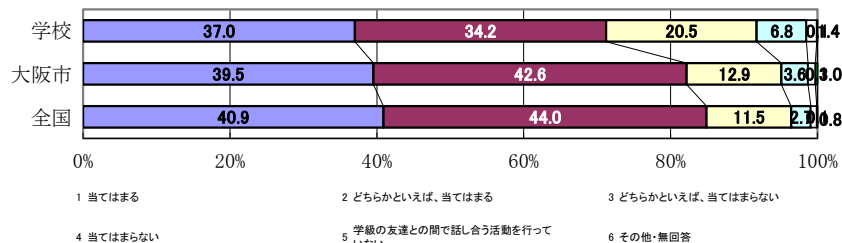
34

5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

